

室内用

RHYTHM

電波時計 取扱説明書 (プログラム報時付掛時計)

お買い上げいただきありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

製造販売元 **リズム時計工業株式会社**
〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番地12
http://www.rhythm.co.jp

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。次の記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、当社お客様相談室にご相談ください。保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。

- 修理部品の保有について
電子回路や歯車などの修理用性能部品は製造打ち切り後、7年間で基準に保有しています。ただし、ケースなどの外装部品の修理には、類似代替品の使用や現品交換で対応させていただきます。
- 修理可能期間について
無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料での修理が可能です。ただし、修理内容や送料などにより修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

この製品のサービスおよび技術サポートは日本国内でのみ利用可能です。
Service and technical support for this product are available only within Japan.

(Y1604)

安全にお使いいただくためにはじめにお読みください

ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。

図記号の説明 ㊦は、禁止（してはいけないこと）を示しています。

㊦は、指示する行為を必ず守ることを示しています。

警告 死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容

❗ **必ず守る**
誤飲を防止するため、小さな部品や電池は、幼児の手の届く所に置かない
万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

❗ **禁止**
電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために、次のことを守る

- 電池に傷をつけない。
- 電池を分解しない。
- 電池をショートさせない。
- 電池を充電しない。
- 電池を加熱しない。
- 電池を火の中に入れない。

❗ **電池の液漏れが起きたときは、素手でさわらない**

- 目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療を受けてください。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。
- アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。
- 電池を外して漏れた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときは、お買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

注意 傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容

❗ **必ず守る**
電池の⊕⊖を正しく入れる
液漏れや発熱の原因となり、故障やけがの原因になります。

❗ **禁止**
強い振動や衝撃を与えない
故障や破損の原因になります。

❗ **浴室やサウナ、温室など、高温・高湿になる所では使わない**
故障や誤作動の原因になります。

❗ **ぬれた手で触らない**
故障や誤作動の原因になります。

❗ **分解や改造をしない**
故障や破損の原因になります。
分解禁止

❗ **禁止**
下記のような場所では使わない
精度の低下、部材の変形、変色、劣化、故障の原因になります。

- 直射日光が当たる所。
- 暖房機器の風が当たる所。
- 温度が+50℃以上の所。
- 温度が-10℃以下の所。
- 火気のそば。
- ほこりが多く発生する所。
- 強い磁気が発生させる機器のそば。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- プール、温泉場などガスの発生する所。
- 調理場など多くの油を使用する所。
- ゴムや軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、色移りや付着、変質をすることがあります。

電池のご注意 (電池の正しい使いかた)

電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス (+)、マイナス (-) を間違えない。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 種類の異なる電池を混ぜない。
- 時計が動いていても定期的に交換する。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 電池を新しくするときは、全部取り替える。
- 幼児の手が届かない所に置く。

電池の種類について

- 一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。

電池の寿命について

- 付属の電池は、お試用として工場を出荷するときに入れていますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。
- 温度などの使用条件により、電池寿命が製品仕様より短くなる場合があります。

電池の交換時期お知らせ機能について

電池の交換時期になると、秒針が12時位置に停止して、液晶表示部に電池マークが表示されます。このような状態になったときには、速やかに新品の電池にすべて交換して、**強制受信**を押してください。

電池マークが表示されると次の機能が停止します。

- ①標準電波の受信
- ②毎正時の報時
プログラムチャイム機能は停止しません。

時針と分針はこのような状態になってから1ヵ月程度動きます。

注意 早めに交換して液漏れを防ぎましょう

電池からの液漏れにより、時計の修理や壁面の修繕などに費用が発生することがあります。電池の液漏れや発熱、破裂を防止するために次のことをお守りください。

- 時計が停止したときは、速やかに新品の電池に交換するか、電池を取り出す。
- 時計が動いていても2年に1回定期的に交換する。
- 古い電池と新しい電池、種類の異なる電池を混ぜて使用しない。

おもな製品仕様

使用温度範囲	-10～50℃ *結露しないこと
液晶表示可読温度	0～40℃
時間精度	標準電波受信成功直後の表示精度 秒針 ±1秒 時分針 目盛りに対して±3度 標準電波を受信しない場合 平均月差±20秒 温度が5～35℃のときのクォーツ精度
使用電池	単2形アルカリ乾電池 JIS規格 LR14 1.5V 2個
電池寿命	約2年 標準電波の受信に成功して、秒針が1日当たり8時間停止 プログラム報時を10回/日 音量中位で鳴らした場合
暗所秒針停止	明暗センサーと連動して12時位置に停止
カレンダー	液晶表示 2012～2099年対応
電池の交換時期	電池マーク点灯、秒針12時位置に常時停止
お知らせ機能	
毎正時報時	時刻に応じた数だけ「ボーン」と鳴る
暗所自動鳴り止め	明暗センサーと連動して毎正時報時を停止
プログラム報時	設定した時刻にウェストミンスターチャイムを鳴らす
チャンネル	24チャンネル(24の時刻を設定可能)
音量調節	ロータリー式ボリューム
モニタ	報時音の試聴

防塵防滴機能 なし

電波受信機能 標準電波受信による時刻修正

受信局 福島局/九州局 自動選択

受信ON/OFF あり

自動受信回数 最少 1日1回 最多 1日6回 *受信に成功するとその日の受信は行わない

受信開始時刻 2,3,4,12,13,14時 各時間帯の16分20秒 *2時16分20秒は必ず行う

液晶表示について

▷0℃以下では表示が薄くなったり、反応が鈍くなったり、消えたりすることがあります。40℃以上では表示が濃くなったり、ムラになったりすることがあります。温度が0～40℃になれば正常に戻ります。

▷液晶はおよそ5年を経過すると表示が薄くなる場合があります。

- 製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

付属品

お試用電池 2個、木ねじ 1個、取付金具 1個、くぎ 4個、取扱説明書 本書、保証書 1枚

お問い合わせ先

お問い合わせに際しては、製品番号(型番)「4FNA01」をお伝えください。

(フリーダイヤル)
お客様相談室 0120-557-005

受付時間 9:00～17:00 (土日、祝日および当社休日を除く)

電波時計について

電波時計とは

クォーツ時計に標準電波を受信する機能を搭載し、標準電波を受信することにより、自動的に正確な時刻に修正する時計です。

標準電波とは

標準電波(JJY)は、日本標準時(JST)をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波送信所は、福島県の「福島局:おおたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局:はがね山標準電波送信所」の2ヵ所にあります。

標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。
(http://jjy.nict.go.jp)

標準電波の送信停止について

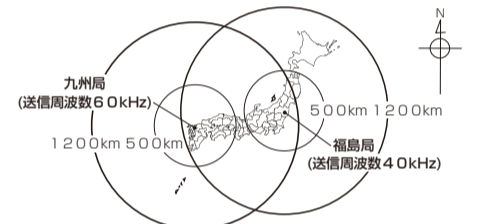
送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外でのご使用になるときには、電波受信機能をOFFにして手動で日時を合わせてください。ONのまま使用すると、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った日時を表示することがあります。

電波の受信範囲について

送信所から約1200km離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害(太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響など)により、受信できないことがあります。



この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの中、ビルの谷間、地下
- 高圧線、テレビ塔、電車の架線近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く



電池・時計の廃棄

- お住まいの自治体の指定に従ってください。
- 電池と時計を分別して廃棄してください。

お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどの汚れ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- 静電気により、時計や掛けた壁面が汚れることがありますので、定期的に汚れを落としてください。

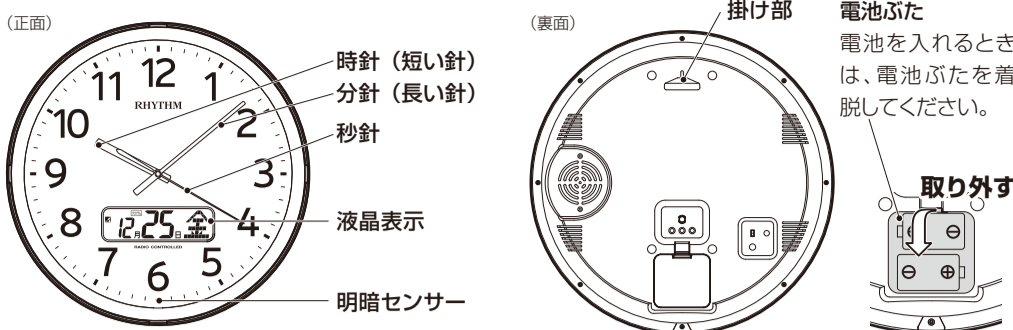
静電気による誤作動について

静電気の影響により、正常に機能しなくなることがあります。このようなときは**強制受信**を押してください。

この取扱説明書を許可なく複製、変更することを禁じます。本製品を使用することによって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなんら責任を負いかねますのでご了承ください。

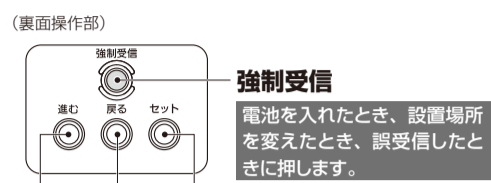
各部の名称と役割

○図は操作説明用ですので、実際のものとは異なることがあります。



針の動き……通常の時刻表示

時針・分針：10秒に1回転
秒針：1秒ステップで動く
※自動受信したときに、時刻を修正するために、早送りや移動したり、停止することがあります。

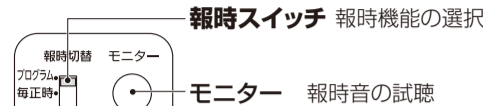


進む 戻る セット

手動で日時を合わせるときやチャンネルに時刻を設定するときに使用します。

単2形アルカリ電池を2個入れる

注意 電池の⊕⊖を指示と逆向きに入れると、電池の液漏れ・発熱・破裂の原因となります。



ボリューム 報時の音量調節

Q 大きくなる

Q 小さくなる

液晶表示について

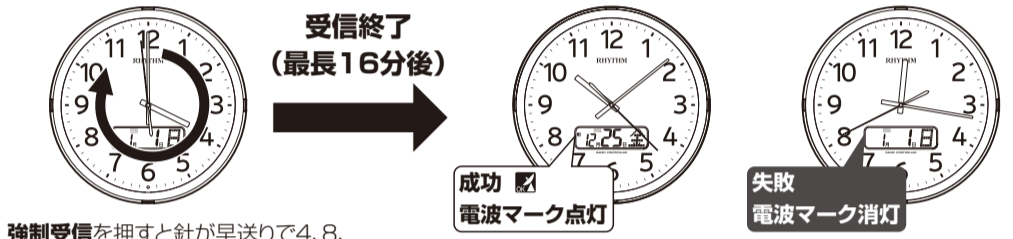
液晶表示は、時計を掛けて少し見上げる位置がくっきりと見やすくなっています。使用している液晶の特性上、他の方向から見ると、表示が薄くなったり、ムラになったりすることがあります。

明暗センサーのはたらき

明暗センサーにより、暗くなると秒針を12時位置で停止させ、「毎正時」の報時を停止させます。昼間や夜間の照明時などでも明るさが不足すると明暗センサーが反応します。※明るくなると秒針が正しい時刻に早送りや復帰します。※報時スイッチが「プログラム」のときには、暗くても報時をします。

標準電波を受信の流れ

(表示例)



強制受信を押すと針が早送りして4、8、12時のいずれかに移動して停止

① 電波マークの変化（電波サーチ機能）

短い間隔で点滅してから、1秒点滅で電波の状態に応じて変化します。



② 受信結果の見かた

- ▶ **受信成功** 電波マークが点灯表示。電波マークは受信成功後、およそ25時間点灯します。
- ▶ **受信失敗** 電波マークが消灯。表示されている時刻は正しくありません。標準電波を受信できない場合

※受信に成功しても日時が正しくないときは、ノイズが原因と考えられますので、設置場所を変えて強制受信を押しください。
※受信マークは、25時間以内の受信結果を表示します。

標準電波を受信できない場合

●朝までそのまましておく

一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておく受信できる可能性が高くなります。

●場所を変える / 受信をやり直す

電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考にして、時計の正面または裏面が電波の送信所に、なるべく向くようにして、強制受信を押し再度受信を行ってください。

●日時を合わせて使用する

ベランダなどの屋外で電波の受信に成功させるか、手動で日時を合わせて使用してください。電波が受信できないときの時間精度は、クォーツ精度になります。

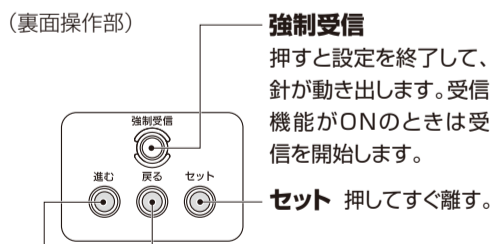
手動での日時合わせ

電波が受信できないときや任意の日時に合わせるとき

操作例に従って設定してください。

操作の手順

- 戻るまたは進むを西暦年が点滅するまで約3秒間押し続けます。
 - 西暦年、月日、時刻、電波受信ON/OFFの順に設定します。
 - 点滅している数値を進むまたは戻るを押して合わせます。
 - セットを押すと次のステップに移ります。
- ※操作を約1分間中断すると、表示されている内容に設定して、カレンダー表示に戻ります。

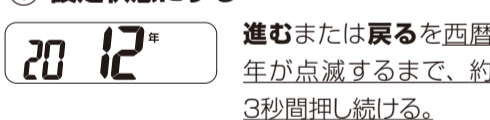


ボタン操作	押してすぐ離す	押し続ける
進む	1つ進む	早送り
戻る	1つ戻る	早戻し

※電波受信機能がONときは、定期的受信を行い、受信に成功すると日時を修正します。
※標準電波を受信しない場合の時間精度は、平均月差±20秒のクォーツ精度になります。
※手動では、2012～2099年の範囲で日時を設定できます。

操作例 2015年12月25日 午前10:37

① 設定状態にする



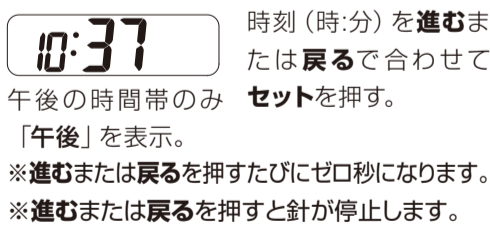
② 西暦年



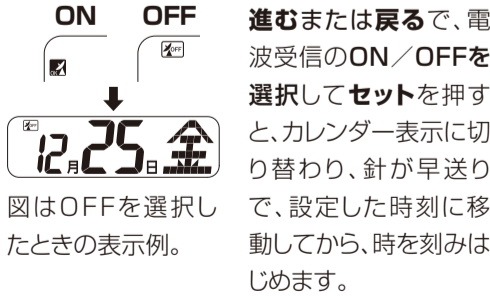
③ 月日



④ 時刻



⑤ 電波受信ON/OFF選択



電波受信機能のON/OFFについて

- ON：定期的に受信を行い、受信に成功すると日時を自動修正します。
- OFF：電波を受信しません。遅れ進みが発生したときは、手動で日時を修正してください。
- 回路内に電荷がなくなった後に、電池を入れると電波受信機能はONになります。
- 受信機能のON/OFF設定は「手動での日時合わせ」の中で行います。
- 電波受信機能をOFFのときに、強制受信を押すと一時的に液晶表示が消え、針が早送りしてから時刻を表示します。
- 電波受信機能をOFFからONにしたときには、強制受信を押し受信を開始させてください。

使用方法 電池を入れて時刻を合わせる

手動で日時を合わせるときは「手動での日時合わせ」を参照してください。

○窓際など電波の受信しやすい所でお使いください。

① 電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて電池を入れる

② 強制受信を押す 標準電波を受信の流れ 参照

針が早送りして4、8、12時のいずれかに移動して受信が終わるまで停止します。
※受信が終わるまでボタン操作をしないでください。

③ 時計の掛けかたに従って確実に掛ける

④ 16分待つて受信結果を確認する

受信が終わると針が動き出します。受信に成功しているときは、電波マークが点灯します。

報時機能を使うに従って機能を設定してお使いください。

時計の掛けかた

注意 掛けかたが不適切な場合、時計が落下する危険があります。

○掛けたときは、上下、左右に軽く動かして、壁掛け部に掛け具（木ねじ）がしっかりと掛かっていることを確認してください。

○垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れるおそれがあります。

○市販の掛け具を使用するときは、壁掛け部にしっかりと掛かるものを選んでください。

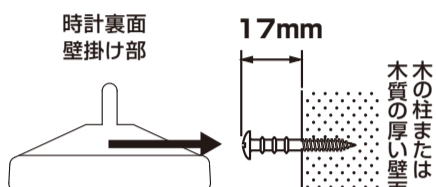
○ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に設置してください。

○壁掛け部以外のところに掛けない。

■ 木の柱または木質の厚い壁面の場合

●付属の木ねじが使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。

●木ねじは右図のとおり、壁面にしっかりとねじ込んで固定してください。



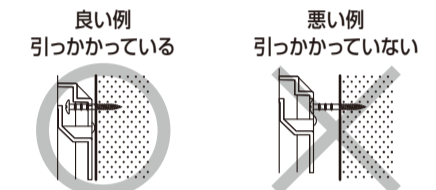
■ 石こうボードの壁面の場合

付属の取付金具を使用できる場所は、石こうボードの壁面です。

●壁の材質、取り付け方を確認の上ご使用ください。

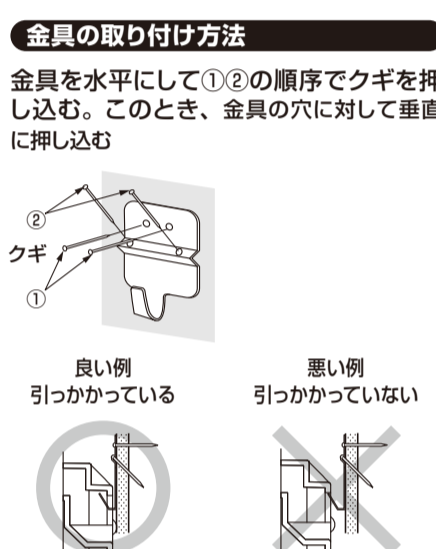
●取付金具は水平に取り付けてください。傾けて取り付けると時計が傾きます。

●取付金具には、3.5kg以上のものは掛けないでください。



■ その他の壁面の場合

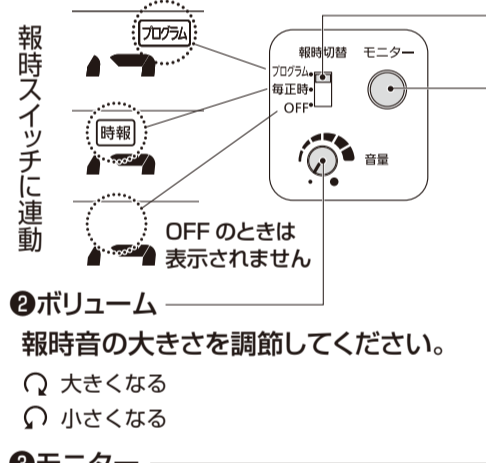
コンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、粘着式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。



報時機能を使う

報時機能は、報時スイッチにより選択して使用することができます。

- 「プログラム」：事前に設定した時刻にウェストミンスターチャイムを鳴らすプログラム報時。
- 「毎正時」：毎正時、たとえば10時00分に「ボーン」と10回鳴らす毎正時報時。



報時音を試験するときに押ししてください。

報時スイッチを「プログラム」または「毎正時」にしてからモニターを押しください。

プログラム：ウェストミンスターチャイムが鳴り、カレンダー表示部に設定時刻を順に表示します。

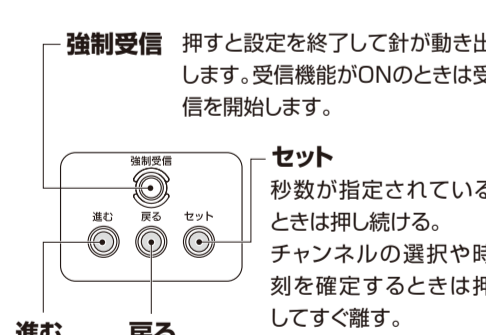
毎正時：現在時刻に対応した数だけ「ボーン」と鳴る。

OFF：鳴りません。

※試験の途中で止めるには、モニターを押しってください。

■ プログラム報時の設定

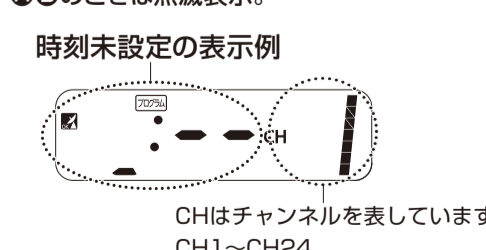
- 24チャンネルに設定することができます。
- チャンネルに時刻を設定すると、その時刻にチャイムが鳴ります。……… Aへ
- 設定したチャンネルを解除（鳴らなく）するには、時刻を未設定にします。…… Bへ
- ※1つのチャンネルに1つの時刻を設定できます。分単位で時刻を設定できます。
- ※設定した内容は、電池を取り外しても保持しています。



ボタン操作	押してすぐ離す	押し続ける
進む	1つ進む	早送り
戻る	1つ戻る	早戻し

プログラムチャンネルの表示例

A Bのときは点滅表示。



時刻設定中または設定済みの表示例



① 報時スイッチ

報時機能の選択してください。
プログラム：設定時刻にウェストミンスターチャイムが鳴ります。
事前に鳴らす時刻を設定する必要があります。

※「■ プログラム報時の設定」
毎正時：時刻に対応した数だけ「ボーン」と鳴ります。暗くなると明暗センサーと連動して鳴らなくなります。
OFF：報時機能を停止します。

A チャイムを鳴らす時刻の設定

- セットをCH1が表示されるまで約2秒間押し続ける。
 - セットを押してチャンネルを選択。
 - 時刻を進むまたは戻るで設定してセットを押す。→②へ
- CH 24（チャンネル 24）のときにセットを押すとカレンダー表示に戻ります。
※設定を終わるには、セットを約2秒間押し続けるとカレンダー表示に戻ります。

B チャンネルに設定した時刻の解除

- セットをCH1が表示されるまで約2秒間押し続ける。
 - セットを押して解除するチャンネルを選択。
 - 進むと戻るを同時に押すと時刻が未設定に変わる→②へ
- CH 24（チャンネル 24）のときにセットを押すとカレンダー表示に戻ります。
※設定を終わるときはセットを約2秒間押し続けるとカレンダー表示に戻ります。

※A Bのときに約1分間ボタン操作を中断すると設定を終わります。

② 設定内容を確認するには

- 報時スイッチを「プログラム」にする。
- モニターを押す。
チャイムが鳴り、およそ1.5秒間隔でCH1から順に表示します。表示を途中で止めるにはモニターを押しってください。